連合２０２４平和行動 in 沖縄

《はじめに》

６月２３日は、沖縄戦の戦没者の霊を慰めて、平和を祈る日として定められた「慰霊の日」。連合は、沖縄「慰霊の日」である６月２３日から２４日にかけて「２０２４平和行動 in 沖縄」が開催し、連合岐阜からは５名で参加しました。

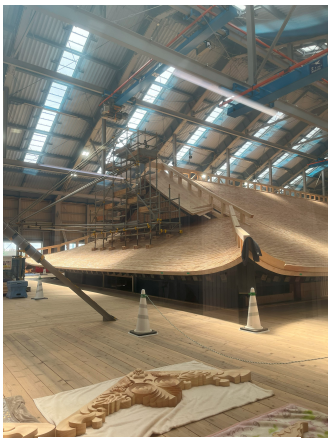
沖縄は６月２０日に梅雨が明けたばかりで、終日天気に恵まれ体が暑さに慣れていない中での行動は非常に厳しい環境でしたが、参加者全員が体調を崩すことなく、沖縄の歴史や文化、戦争の痛ましさを学び、体験してくることができました。

《６月２３日：１日目》

【首里城見学】

沖縄に到着後、世界遺産「首里城」を見学しました。
首里城正殿は２０１９年の火災で、正殿等の主要施設が消失しましたが、現在２０２６年の復元に向けて修復途中でした。沖縄のシンボルである首里城が完全復元されることが期待されます。




修復中の様子


修復建屋をバックに撮影



【２０２４平和オキナワ集会／那覇市文化芸術劇場なは―と（大劇場）】



第１部：基調講演

前泊博盛・沖縄国際大学経済学部地域環境政策学科教授より「再考・日米地位協定～〝標的の島〟からの警告：米軍、軍拡、憲法、自衛隊～」をテーマに、基調講演をいただきました。

日米地位協定の改定に向けては、国民やメディアによる「無視・無関心の壁」、実態を知らない、他国地域協定を知らない「無知の壁」など「８つの壁」を乗り越えなければならないとした上で、参加者に対して傍観者ではなく主体者となって平和を訴えて欲しいと述べられました。

第２部：平和式典



沖縄線で亡くなられた御霊と世界中で起きている戦争や紛争で命を落とされ方々のご冥福を祈り参加者全員で黙祷を行いました。連合清水事務局長の主催者あいさつから始まり、仲宗根・連合沖縄会長、来賓挨拶として照屋・沖縄副知事が挨拶。

次いで、仲宗根・沖縄会長から大野・連合広島会長へのと、「連合・平和行動旗（ピースフラッグ）」が引き継がれ、大野・連合広島会長より８月に開催する平和行動 in 広島に向けての決意が述べられました。最後に、堀川恵・連合沖縄女性委員会委員長が平和アピール（案）を読み上げ、満場一致で採択し、閉会となりました。

《６月２４日：２日目》

【ピースフィールドワーク】

私たちは、戦跡Ｂコースに参加しました。ガイドは、連合沖縄青年のみなさんでした。チームをつくり作り、事前学習会を重ね学んだことを丁寧に説明して案内していただきました。

Ｂ（南部戦跡）コース（計 121 名）
嘉数高台（中部戦跡、在日米海兵隊・普天間飛行場）→旧海軍司令部壕→ひめゆりの塔／ひめゆり平和祈念資料館→魂魄の塔→→平和祈念公園／沖縄県平和祈念資料館

■旧海軍司令部壕



地下３０m、延長約１Km、入り口はコンクリートで固め、内部は丸太で補強されていました。中部一帯が眺望でき戦況を把握するには最良の地形。壕内は司令官室、参謀室、作戦室など多くに部屋が作られていました。写真は信号室です。

■ひめゆりの塔・資料館



資料館は悲惨な沖縄戦を後生に伝えるため、行政の援助を受けることなく、ひめゆり同窓会が募金などにより設立されたそうです。亡くなられた生徒や教員の写真が壁中に貼られている展示室では、なんとも言い表せない息苦しさを感じました。生前の人柄や死亡時の状況が添えてあり、読んでいると言葉にならないほど悲しい気持ちになりました。

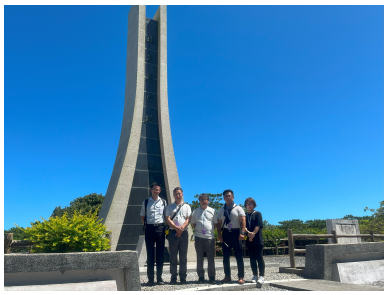


■魂魄之塔（献花）

沖縄戦末期、南部に日本軍も住民も米軍に追いつめられ、犠牲になった方々の遺骨を集め納骨堂を完成して祀ったのが「魂魄の塔」。魂魄の塔前には地元の皆さんが持参した、花・お菓子・水など沢山のお供えをしてあり、私たちも一緒に犠牲者に哀悼の意を表しました。

■平和祈念公園・資料館

最後に訪れたこの公園内には、２０万人を超える亡くなられた全ての方々の名前を刻んだ記念碑「平和の礎」がありました。戦争に巻き込まれて犠牲になられた方、召集され全国からきて戦い、故郷へ帰ることが出来なかった岐阜県記念碑にお参りしました。晴れ渡る空ときれいな海の景色を見て、終戦後に生まれ育った私たちが、二度と戦争を起こしてはいけないという気持ちを連合旗の基、これからも平和行動継続に対して継続の大切さを実感しました。





《最後に》

今回の「平和行動 in 沖縄」で、私たち参加者一同、沖縄戦の悲惨さを知り、現在抱える問題について学んできました。今も残る戦争の爪跡がこんなに存在していること、その戦跡を訪れるたびに、沖縄の人たちの「この悲劇を忘れてはいけない」という思いの強さを感じました。
連合はこの平和行動を続けていきます。ぜひ多くの皆さんに参加いただくことを望みます。